

## Spring '17 リリースノート

公開: 2017年3月3日

この文書では、DocuSign Spring '17 Releaseの一部として2017年3月3日にDocuSign実稼働環境に導入されたアップデートについて説明します。

**注:** このリリースノートには、月例のサービスパックで実装済みの内容も含まれています。実装済みの内容のタイトルは、その実装月で示されています。

### 前回のリリース以降の更新内容

- 項目SIGN-12458の削除
- 項目GRUS-78の追加

受信者のSMS認証での電話番号 .....	2
ダイレクトAPIデプロイメントにおけるドメインの更新 .....	3
署名者へのFAX送信 .....	4
Connect HTTPリスナーの廃止 について .....	5
DocuSign Paymentsの更新 .....	6
DocuSign Payments (2月) .....	7
テンプレートマッチングの動作設定 (2月) .....	9
受信者の言語の設定とカスタムのメールメッセージの指定 (2月) .....	10
DocuSignプラットフォームシールについての更新 (1月) .....	11
DocuSign Express利用契約に関するダイアログボックスについての更新 (1月) .....	12
「任意の署名者」機能の廃止 .....	13
ログイン画面の再設計 .....	14
ブランド設定の署名画面用リソースファイルのアップデート .....	15
解決された問題 .....	16

## 受信者のSMS認証での電話番号

米国以外でのSMS認証をサポートするため、認証時に受信者のデバイスに表示されるSMS電話番号が変更されました。従来、DocuSignからのSMSメッセージには、電話番号として「1 (206) 735-3490」が表示されていました。受信者の所在地にかかわらず一貫したエクスペリエンスを提供するため、地域やキャリアに応じて電話番号が適切に表示されるようにインフラストラクチャを改善しました。この機能は現在デモ環境で提供されており、Spring '17リリースにより実稼働環境に導入されます。

## ダイレクトAPIデプロイメントにおけるドメインの更新

DocuSignでは、ビジネスでの文書トランザクションをサポートするため、高度に強固で信頼性の高いサービスの提供を常に目指しています。ここでは、DocuSignサービスに関する最新情報について説明します。一部のお客様は、DocuSignサービスでアドバタイズされるドメインが明示的に許可されるようにファイアウォールを設定しています。DocuSignのドメインが許可されるように設定する場合は、以下のドメインを使用することをお勧めします。

### 許可するドメイン

\*.docusign.net  
\*.docusign.com

ポート: 443

### 考慮事項

- ファイアウォールをDocuSignサービス用に設定していない場合は、特に必要な手順はありません。
- ドメイン名ではなく、公開されているIPアドレスの範囲の情報に基づいてファイアウォールを設定している場合は、特に必要な手順はありません。
- DocuSignサービス用にファイアウォールで許可されるドメインのリストを設定している場合は、組織のネットワーク部門と連絡しながらそのリストを確認し、必要に応じて更新する必要があります。
- ファイアウォールの設定が不明な場合は、DocuSignアカウント担当者にお問い合わせます。

### 追加されるドメイン

DocuSignサービスのドメインとして、以下が追加されます。

demo-app.docusign.net  
na1-app.docusign.net  
na2-app.docusign.net  
na3-app.docusign.net  
eu-app.docusign.net

ポート: 443

### 追加日程

これらのドメインは、2017年3月に追加される予定です。

### 関連情報

詳しくは、[DocuSign Trust Center](#)で公開されている情報を参照してください。

## 署名者へのFAX送信

署名者に文書をFAXで送信し、その署名プロセスの経過をDocuSignアカウントで管理できるようになりました。

FAXで送信した文書には、FAX送付状が追加されます。署名者はその文書に署名して、送付状に必要事項を記入し、送付状に記載されているFAX番号を使用してDocuSignに文書を返送します。

FAXでDocuSignに返送された文書は元のエンベロープに添付され、署名プロセスが完了します（または次の署名者に送信されます）。

文書履歴および完了証明書には、FAX受信者のアクションと情報がセキュアな監査証跡として記録されます。

この機能について詳しくは、[「署名者へのFAX送信」](#)を参照してください。

## Connect HTTPリスナーの廃止 について

現在、DocuSign Signatureのデモシステム（demo.docusign.net）では、お客様側サーバーへのHTTPまたはHTTPS接続によるConnect Webhookコールがサポートされています。実稼働システムではHTTPS接続のみがサポートされていますが、状況によってはHTTPを使用できます。

ただし、DocuSign Connectでの通知など、セキュリティが保護されるべき情報ではHTTPを使用するべきではありません。

このため、デモおよび実稼働のシステムでHTTPによるConnect通知を使用できなくなりました。

既存のConnectリスナーでHTTPを使用している場合は、HTTPSがサポートされるようにサーバーをアップデートする必要があります。[Let's Encryptプロジェクト](#)では、無料のHTTPS証明書が提供されています。自己署名の証明書を使用することはできません。

この変更は、eventNotification Connect Webhookリスナーにも適用されます。

### 注意すべき日程

**2017年6月15日:** デモおよび実稼働システムで、新規アカウントのConnectリスナーでHTTPを使用できなくなります。

**2018年2月1日:** デモおよび実稼働システムで、すべてのアカウントのConnectリスナーでHTTPを使用できなくなります。HTTPを使用するConnectリスナーは、この日以降動作しなくなります。

現在、ConnectまたはeventNotificationIfリスナーでHTTPを使用している場合は、早急にサーバーでHTTPSを使用できるようにしてください。

## DocuSign Paymentsの更新

Spring '17リリースにより、2017年2月21日にリリースされたDocuSign Paymentsに以下の機能が追加されました。

- **国際通貨のサポート:** 差出人は、米国ドル（USD）に加えて、英国ポンド（GBP）、オーストラリアドル（AUD）、およびカナダドル（CAD）での支払いを署名者に依頼できるようになりました。
- **一括送信:** 一括送信機能を使用したエンベロープで支払い機能を使用できるようになりました。

## DocuSign Payments（2月）

2017年2月21日以降、DocuSignアカウントの管理者は、アカウントに支払いゲートウェイを関連付けることができるようになりました。これにより、署名者からの支払いを特定の支払いゲートウェイアカウントで受領できます。支払いゲートウェイとの関連付けを設定すると、文書に支払い用のフィールドを追加して署名者に送信できるようになります。支払いフィールドが追加された文書を受信した署名者は、通常の手順で必要なフィールドを記入し、支払い情報を送信します。この支払いは、文書のすべての受信者のプロセスが完了したときに支払いゲートウェイで処理されます。

### 管理者の操作

現在、管理者はStripeを支払いゲートウェイとして設定でき、クレジットカード、Apple Pay、およびAndroid Payがサポートされています。支払いゲートウェイとの関連付けを設定すると、管理者は以下の操作を行えます。

- 支払いゲートウェイアカウントとの接続をテストする。
- アカウントのニックネームを変更する。
- 支払いゲートウェイアカウントとの接続を無効にしたり削除したりする。
- 支払いゲートウェイアカウントとの接続を有効にしたり無効にしたりする。

DocuSign ADMIN DocuSignホームに戻る ヘルプ

アカウント  
請求と使用状況  
アカウントプロフィール  
セキュリティ設定  
地域の設定  
ブランド設定  
従来の個人設定

### 支払いゲートウェイ

追加

支払いゲートウェイ	アカウント名	変更済み	ステータス
stripe	Stripe_5313	2/3/2017   10:22:36 午後	● 有効

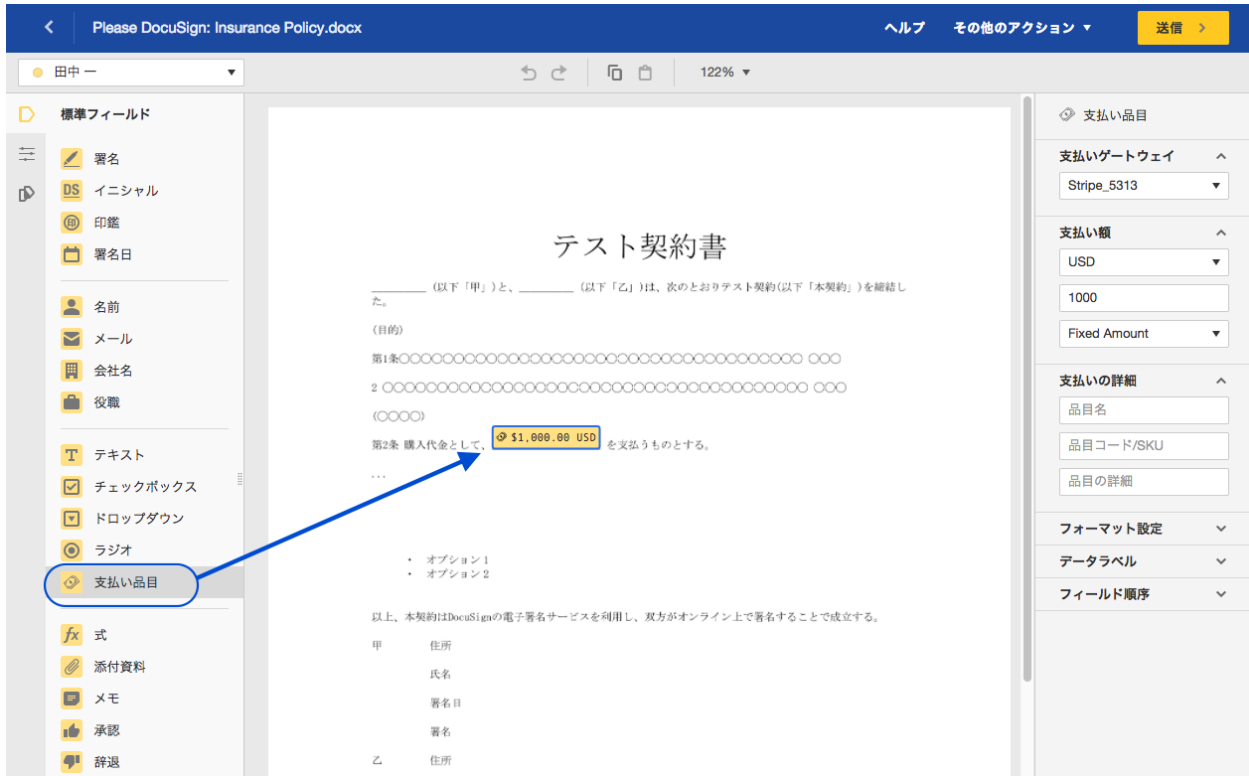
アクション

ユーザーとグループ  
ユーザー

### 差出人の操作

DocuSignアカウントと支払いゲートウェイアカウントとの関連付けが設定された後で、差出人は文書に支払い用のフィールドを追加してそれを署名者に送信します。DocuSignで使用できる支払いフィールドの種類は以下のとおりです。

- 支払い額を署名者に通知するフィールド。
- 署名者が支払い額を申告するフィールド。
- 文書上のほかのフィールドの値から支払額を計算するフィールド。たとえば、単価と品目数から合計額を算出することができます。



受信者が文書での署名と支払いを完了すると、受信者ごとにその文書上のすべての支払いフィールドの情報が合計され、支払いゲートウェイでその支払いが認証されます。文書のすべての署名プロセスが完了するまで、受信者には課金されません。

文書の差出人は、その文書の履歴を表示することで支払いステータスを確認できます。支払いステータスとして「支払いの認証」と表示された場合は、支払いが認証され、文書の完了を待機している状態を示します。「支払い済み」は、文書が完了し、支払いが確定された状態を示します。何らかの理由で支払いを処理できなかった場合は、文書リストまたは履歴に「支払いの失敗」と表示されます。

## 署名者の操作

支払いフィールドが追加された文書が送信されると、署名者は通常の文書と同じ通知メールを受け取ります。文書上の各フィールドに必要な情報を記入し、支払いフィールドの金額を確認します。[完了]をクリックすると、[支払い情報]ウィンドウが開きます。

ここで支払い方法（クレジットカードなど）を選択し、必要な情報を入力します。支払いについて確認したら、[すぐに支払う]をクリックします。さらに[送信して完了]をクリックして署名プロセスを完了します。文書の唯一の署名者、または署名順の最後の署名者の支払いは、すぐに処理されます。それ以外の署名者の支払いは「支払いの認証」ステータスのまま保持され、文書のすべての署名プロセスが完了した後で処理されます。何らかの理由で支払いを処理できない場合、文書リストまたは履歴にステータスとして「支払いの失敗」と表示されます。



## テンプレートマッチングの動作設定（2月）

テンプレートの作成者やDocuSign管理者が、テンプレートごとに異なるマッチング動作を設定できるようになりました。テンプレートマッチング機能を使用すると、テンプレートに設定されている受信者、メッセージ、およびフィールドを自動的に適用して、文書をすばやく準備できるようになります。

各テンプレートについて、以下のマッチング動作を設定できます。

- テンプレートマッチングの対象にするかどうか。
- カスタムのIDR（インテリジェントドキュメント認識）ゾーンの指定。

### テンプレートマッチングの対象にするかどうか

差出人が送信する文書のファイルを追加すると、既存の各テンプレートがテンプレートマッチングの対象として評価されるかどうか「マッチングステート」により決定されます。テンプレートには、以下のいずれかのマッチングステートが適用されます。

- **Eligible（マッチングの対象）**：作成したテンプレートにはデフォルトでこのステートが適用されます。このステートのテンプレートはテンプレートマッチングの対象として評価されます。このステートは、テンプレートの使用後120日間保持されます。120日間以上使用されないテンプレートのステートは「Excluded」になり、マッチング対象から除外されます。ただし、そのテンプレートを使用することは可能です。「Excluded」ステートのテンプレートを手作業で適用したりそれを基に新しい文書を作成したりすると、そのテンプレートが再び「Eligible」になります。
- **Included（マッチングの対象に追加）**：このステートのテンプレートは常にテンプレートマッチングの対象として評価され、自動的に「Excluded」になることはありません。これらのテンプレートを「Excluded」にすることはできませんが、「Eligible」にすることはできません。
- **Excluded（マッチングの対象から除外）**：このステートのテンプレートは、テンプレートマッチングの対象にはなりません。ただし、そのテンプレートを文書に手作業で適用したりそれを基に新しい文書を作成したりすることは可能です。

### カスタムのIDRゾーンの設定

DocuSignのIDR（Intelligent Document Recognition: インテリジェントドキュメント認識）では、アップロードした文書上のテキストや情報に基づいて、既存のテンプレートにマッチするかどうか判断されます。デフォルトでは、文書の冒頭と末尾の25語が比較されます。より正確なマッチング結果を得るには、テンプレートにカスタムのIDRゾーンを追加します。複数のテンプレートで冒頭と末尾が同一で特定の箇所のみ異なる場合は、その箇所をカスタムIDRゾーンとして指定します。

テンプレート上の任意のテキストをIDRゾーンとして指定できます。指定できるテキストの量に制限はありません。ただし、IDRゾーンとして指定するテキストが少なすぎるとマッチング結果があいまいになり、多すぎるとマッチング処理に時間がかかるようになります。

テンプレートマッチングの動作設定について詳しくは、[このトピック](#)を参照してください。

## 受信者の言語の設定とカスタムのメールメッセージの指定（2月）

文書の各受信者に送信される通知メールの言語およびメッセージを指定できるようになりました。異なる言語を使用する受信者に文書を送信する場合は、受信者ごとに通知メールの言語を設定できます。

### 受信者の言語についてのアカウント設定

差出人が受信者の言語やメールメッセージをカスタマイズできるようにするには、そのアカウントのDocuSign管理者がこの機能を有効にする必要があります。

### 同席での署名のしくみ

このオプションでは、特定の受信者にカスタムのメールメッセージを作成したり、通知メールや署名画面で使用される言語を指定したりできます。言語を選択すると、通知メールの標準的な文言がその言語で表示されるようになります。また、受信者が署名を行う画面では、すべてのメニューやコントロールがその言語で表示されます。

ただし、この機能は通知メールの件名やメッセージを自動的に翻訳するためのものではありません。通知メールの件名やメッセージは、差出人が入力した言語でそのまま表示されます。同様に、受信者に送信する文書も翻訳されません。

受信者の言語の設定とカスタムのメールメッセージの指定について詳しくは、[このトピック](#)を参照してください。

## DocuSignプラットフォームシールについての更新（1月）

DocuSignプラットフォームからダウンロードする文書には、改ざん防止用のシール<sup>1</sup>が追加されます。このシールの証明書には有効期限があります。たとえば、ダウンロード済みの文書のシール情報をAdobe AcrobatなどのPDFリーダーで確認すると、証明書が2016年12月20日に無効になっていることが示される場合があります。DocuSignプラットフォームからこの文書を再度ダウンロードすると、最新の証明書に関連付けられた新しいシールが適用されます。ただし、文書をDocuSignプラットフォームから削除してしまうと、新しいシールが適用されることはなくなります。

2016年12月6日（新しい証明書の発効日）よりも前にダウンロードした文書に適用されているシールの証明書は、2016年12月21日に有効期限が切れました。このため、Adobe Acrobatを含む一部のPDFリーダーでこれらの文書を開くと、黄色い警告が表示されることがあります。

### この警告が意味するもの

- この警告は、シールに関連付けられている証明書の有効期限が切れており、検証できなくなっていることを示します。
- この警告は、文書やその文書上の電子署名が無効であることを意味するものではありません。
- この警告は、改ざん防止用シールの破損を示すものではありません。改ざん防止用シールが破損していると、証明書の検証にかかわらず、赤い「X」が表示されます（文書が何者かに改ざんされた場合など）。

新しい証明書は、以前とは異なる証明機関で発行されます。Adobe Readerで最新の信頼性情報が使用されるようにするには、[環境設定] > [信頼性管理マネージャー] > [Adobe Approved Trust List (AATL) の自動更新] > [Adobe AATL サーバーから信頼済み証明書を読み込む] チェックボックスがオンであることを確認してください。このチェックボックスがオフの場合、署名者の身元情報が不明であることを示す黄色い警告が表示されることがあります。

ただし、この警告が表示されても、緊急の対応は必要ありません。この警告について詳しくは、以下の資料（英文）を参照してください。

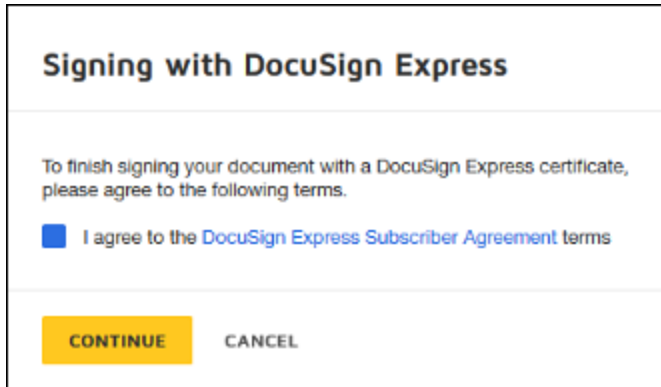
- [Adobe shows "Signature is not LTV enabled" on a DocuSign PDF](#)
- [What is Long Term Validation \(LTV\)?](#)

---

<sup>1</sup>このシールは、DocuSignプラットフォームが署名者である電子署名です。

## DocuSign Express利用契約に関するダイアログボックスについての更新（1月）

SBS（Standards Based Signature）を使用するユーザーをサポートするため、[DocuSign Expressで署名] ダイアログボックスが実装されました。DocuSignがSBSをサポートした当初、このダイアログボックスは無効になっていました。これは、署名エクスペリエンスに影響することを避けるためです。このダイアログボックスの実装により、DocuSign Expressを使用する署名者が明示的にDocuSign Express利用契約（SA）に同意して署名できるようになります。このダイアログボックスには、SAを確認するためのリンクおよびSAに同意するためのチェックボックスが表示されます。



**Signing with DocuSign Express**

To finish signing your document with a DocuSign Express certificate, please agree to the following terms.

I agree to the [DocuSign Express Subscriber Agreement terms](#)

**CONTINUE** CANCEL

## 「任意の署名者」機能の廃止

「任意の署名者」機能は、2017年3月2日をもって廃止されました。この機能は、署名グループに置き換えられています。署名グループは、Enterprise、System Automated Premium、Enterprise Professionalの各エディションで提供され、Business Professionalエディションではアドオンとして追加できます。現在「任意の署名者」機能を使用している場合は、アカウントマネージャーに詳細を問い合わせてください。

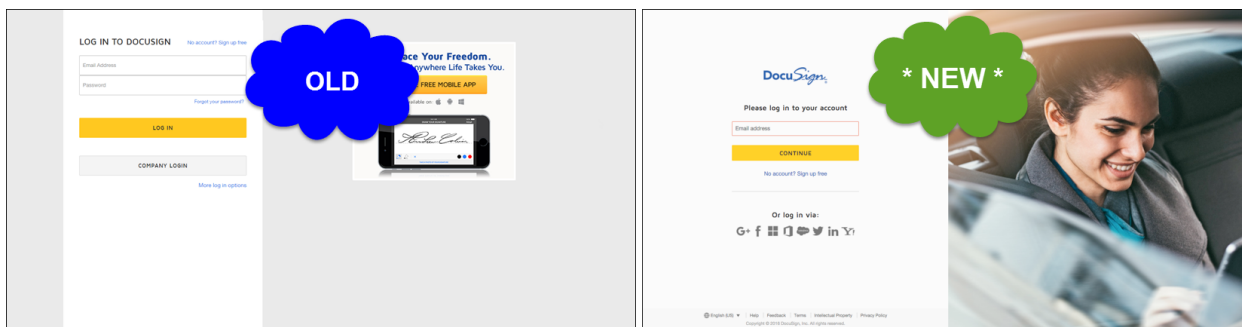
## ログイン画面の再設計

2016年12月にDocuSignデモ環境でのログイン画面が新しくなりました。実稼働環境のログイン画面も数か月で更新される予定です。

現在、いくつかの方法でDocuSignアカウントにサインインできます。ユーザー名とパスワードを使用するかシングルサインオンを使用するかにかかわらず、スムーズなサインインエクスペリエンスの提供を目指しています。この再設計により、より少ないクリックで適切な認証方法によるサインインが可能になります。

DocuSignは、新しいログイン操作について引き続き再検証します。問題が発生した場合は、アカウントマネージャーまたはカスタマーサポートにお問い合わせください。

### 新しいログインエクスペリエンスとは



ほかのインターネットサービスなどでも同様のログインエクスペリエンスが提供されているため、多くのユーザーにとって違和感のない変更であるかもしれません。再設計されたログイン画面では、まずメールアドレスを入力するためのボックスが表示されます。次に、入力したメールアドレスに基づいて、パスワードを入力するか組織でのシングルサインオン（SSO）機能を使用するかが検出されます。パスワードが必要な場合は、DocuSignアカウントのパスワードを入力するためのボックスが表示されます。SSOを使用する場合は、そのままIDプロバイダーにリダイレクトされます。

新しいログイン画面では、各ユーザーに適したログインオプションのみが表示されます。これにより、DocuSign製品のセキュリティが向上し、操作性が改善されました。また、WCAG（Web Content Accessibility Guidelines）にも準拠しており、障がいを持つユーザーにもご利用いただけるようになりました。

### 今回の変更について

ログイン画面に入力したメールアドレスが保存され、次回ログイン時に再入力が不要になります。これにより、毎回メールアドレスを入力しなくてもサインインできるようになります。

## ブランド設定の署名画面用リソースファイルのアップデート

ここでは、ブランド設定で使用する署名画面用のリソースファイルのアップデート内容について説明します。

**注:** カスタマイズした署名画面用リソースファイルをアップロードした場合、変更したすべての値が保持されます。ただし、今回のアップデートで変更された項目については、カスタマイズしたリソースファイルでデフォルト値を使用した場合は新しいデフォルト値が適用されることに注意してください。

### 署名 - EnvelopeIsVoidノードの追加（1月）

無効になったエンベロープの [エンベロープを使用できません] ページで、連絡先情報の表示/非表示を設定するためのノードが追加されました。

- **ノードデータ名:** EnvelopeIsVoid\_ShowSenderInfo

**ノードの説明:** 無効になったエンベロープの差出人情報（会社名、メールアドレス、および住所）を表示/非表示を設定します。

**ノードのデフォルト値:** True（差出人情報が表示されます）

## 解決された問題

**注:** 太字のケース番号は、社外またはユーザーから報告された問題を示しています。

### Spring '17リリースで解決された問題

2017年3月3日にDocuSign実稼働環境に導入されたDocuSign Spring '17リリースでは、以下の問題が解決されています。各項目冒頭の「名前-数値」は、DocuSign社内部で問題を管理する目的で使用されているトラッキング番号です。

- No certificate chain was included for user signatures created with the default pen when userCert.IssuerUniqueId was null (GRUS-78).
- Tool tips were truncated or bleeding over page edges (**SIGN 11524**).
- Under some circumstances, required supplemental documents were skipped and the recipient was presented with the first standard document instead of the required supplemental document (SIGN-12191).
- Email notifications sent to recipients included text that said that they could reply to the message if they had questions about it. If, however, they replied to the message, their reply went to a no-reply mail box and they received no response. That text has been removed from the email notifications (SIGN-12423).

### Februaryサービスパックで解決された問題

- Creating a recipient, removing that recipient, and then correcting the envelope and adding the recipient again produced an error (**API-4485**).
- Expired or declined envelopes could not be cloned through the API; added the call EnvelopeToCloneId to allow this (**API-5361**).
- When an email account existed on more than one server, and the account address was updated, the update did not propagate to all servers, causing a routing error (**API-5508**).
- When a CreateEnvelopeFromTemplates API call was made, it did not retain the signing group IDs (API-5591).
- When Reminders and Expirations were changed in the Admin console, the change was not honored and the settings reverted to the default 120 day expiry and no reminder when subsequently sending from a template (**API-5655**).
- When a signer reviewed a document, changed the Company and Title tags, and clicked Finish Later, the changes reverted to their original values when the document was reopened (**SIGN-1387**).
- Using the REST API to create envelopes that had multiple In Person signers at the same routing order, but with different access codes, forced the last access code specified in the envelope to be used for all recipients (**SIGN-11788**).
- When a document using Russian date format was refreshed, the date format changed from lower case month (the correct format) to upper case month format (SIGN-12091).



## Januaryサービスパックで解決された問題

- Electronic Notaries (eNotaries) were not sent a notary link, but signers were sent the notary link and set up as eNotaries (API-5247).
- When there was one notary and more than one recipient, the signing order was not honored (API-5257).
- Removed attachments were not reflected in the document history (SIGN-8760).
- Opening an envelope event was not reflected in the envelope history (SIGN-10843).
- Private messages were not displayed when completed envelopes were forwarded for review (**SIGN-10920**).
- Allows admins to remove company name and email address from the voided envelope notification sent to persons attempting to open a voided envelope (**SIGN-11114**).
- Users authenticating with SMS or authorization code were seeing different timeout messages when entering the authorization code timed out and when their signing session timed out (**SIGN-11143**).
- The initial powerform screen was not respecting the signer language specified in the powerform (SIGN-11466).
- Long tool tips were truncated when they were near the right edge of the screen (**SIGN-11524**).
- Users are now able to hide private messages using the branding resource file (**SIGN-11627**).
- A Javascript error occurred when trying to open a signing session in an iframe in IE 11 (**SIGN-11651**).
- In Signing v02, subsequent signers were able to see conditional optional fields left blank by first signers when those fields should not have been visible to subsequent signers (**SIGN-11672**).
- Customers' support URLs in the branding resource file were ignored when displaying the envelope not accessible message to users (**SIGN-11679**).
- The merge field placeholders [[UserName]] and [[CompanyName]] were being used instead of the actual sender name and company name (**SIGN-11745**).